

2020年度 科学技術社会論学会 総会・年次学術大会プログラム

(2020.11.27版)

12月5日(土)

【第1セッション】 9:30 - 10:30 (C・D枠は11:00まで)

A-1-1【GS】リスクと概念

座長：柴田 清 (千葉工業大学)

城下 英行 (関西大学)

「脆弱性」を再考する

山田 陽太 (千葉大学)、神里 達博 (千葉大学)

原子炉における「受動的安全」概念の検討

B-1-1【GS】科学/技術哲学

座長：調 麻佐志 (東京工業大学)

呉羽 真 (大阪大学)

科学の自動化と社会

七沢 智樹 (東京大学)

ウェルビーイングのためのテクノロジーについての技術哲学的考察

C-1-1【OS】コロナ禍の市民科学：市民はパンデミックへの対策にいかに関与しうるか

オーガナイザー：水島 希 (総合研究大学院大学)

水島 希 (総合研究大学院大学)

日本の科学-社会関係とジェンダー：手作りマスクと市民放射能測定を事例に

網盛 一郎 (東京大学)

コロナ禍における大学発スタートアップの布マスク・医療用防護服生産とその意義

ヨーク ケネンス (ルーヴェン・カトリック大学)

新型コロナウイルス感染症と向き合う DIY 活動：ベルギーにおける手作りマスクの市民運動

上田 昌文 (NPO 法人市民科学研究室)

市民科学は感染症(拡大)予防に寄与できるか

ディスカッサント：吉澤 剛 (オスロ都市大学)、一方井 祐子 (東京大学)

D-1-1 【OS】 博物館資料を活用した科学史の研究および展示・演示・アーカイブ化の試み

オーガナイザー：多久和 理実（東京工業大学）

多久和 理実（東京工業大学）、塚原 東吾（神戸大学）

イギリス・イタリア・オランダの博物館と連携した 18 世紀製プリズムの比較と分析

吉岡 克己（大阪市立科学館）

旧制姫路高校物理実験機器コレクションの現状と活用

平野 葉一（東海大学）

数学史・科学史に関連する展示物作成とその活用

菱木 風花（東京工業大学・国立科学博物館）

科学者のノート類を整理する：国立科学博物館所蔵「長岡半太郎資料」の目録再作成に向けて

河野 洋人（東京工業大学）

物理学者資料の発見から利活用まで：「久保亮五資料」構築の経験から

ディスカッサント：有賀 暢迪（国立科学博物館）

【第 2 セッション】 10:45 - 11:45

A-1-2 【GS】 レギュラトリサイエンス

座長：見上 公一（慶應義塾大学）

栗本 温子（名古屋大学）

レギュラトリーサイエンスと規制の相互作用－遺伝子組換え表示制度における国内検査法の確立－

岸本 充生（大阪大学）

接触確認アプリと ELSI に関する 10 の視点

B-1-2 【GS】 科学論

座長：藤垣 裕子（東京大学）

福本 江利子（広島大学）

「ジャーナル共同体」再考：捕食ジャーナルと紀要を位置づける

【昼休み】 11:45 - 12:45

12:45 - 14:25 神戸大学実行委員会企画 1

放射光科学とサイエンス・ベースド・イノベーション

司会：松嶋 登（神戸大学）

桑田 敬太郎（神戸大学）、原 拓志（関西大学）、松嶋 登（神戸大学）

放射光施設が形成する社会物質的エコシステム

石川 哲也（理化学研究所）

先端科学技術基盤と経営学

高田 昌樹（東北大学）

先端科学技術基盤の社会的責任

ディスカッサント：塚原 東吾（神戸大学）、桑田 耕太郎（東京都立大学）

14:40 - 16:20 神戸大学実行委員会企画 2

中川保雄記念シンポジウム：「放射線被曝の歴史」研究の現在的意義

司会：柿原 泰（東京海洋大学）

島菌 進（上智大学）

中川保雄と放射線健康影響という科学研究領域の歪み

田井中 雅人（神戸大学）

中川保雄の仕事を「再発見」し、ヒバクを「知ろうとすること。」

ディスカッサント：牧野 淳一郎（神戸大学）、山内 知也（神戸大学）

16:35 - 17:20 総会

17:20 - 18:35 柿内賢信記念賞授与式および同特別賞受賞者記念講演

12月6日(日)

【第1セッション】 8:45 - 10:15

A-2-1【GS】科学コミュニケーション調査

座長：山口 富子（国際基督教大学）

小林 俊哉（九州大学）

STS ステートメント・サイエンスカフェオンライン開催における参加者の受容性

田中 沙紀子（日本科学未来館）、伊達 雄亮（日本科学未来館）、厚見 宙志（日本科学未来館）

革新的技術に関する研究者と市民の意見の相違についての調査と取り組み—ナノ医療技術で実現を目指す「体内病院」の事例を通じて

標葉 隆馬（大阪大学）、小泉 望（大阪府立大学）

ゲノム編集食品をめぐる意識の比較

B-2-1【GS】メディアと表象

座長：種村 剛（北海道大学）

藤吉 隆雄（国立情報学研究所）

少年マンガにみる科学者表象の変化～週刊少年マンガ雑誌創刊期と現代の比較～

佐藤 優紀（東京大学）

福島第一原発事故の避難者をめぐる言説と表象——母子避難に注目して

菅原 風我（無所属）

地域社会と科学ジャーナリズム-地方紙・地域紙はいかに巨大科学と向き合うべきか-

C-2-1【OS】コロナ禍のSTSの役割と専門家交流

オーガナイザー：横山 広美（東京大学）

横山 広美（東京大学）

COVID-19 下の STS の役割と専門家信頼

五十嵐 泰正（筑波大学）

マンガ作品『ちはやふる』を媒介としたコミュニケーション実践

小出 重幸（日本科学技術ジャーナリスト会議）

専門家と市民のあいだをつなぐ科学情報の発信プラットフォームの試み

COVID-19 SciComm と日本科学技術ジャーナリスト会議（JASTJ）の連携

粥川 準二（県立広島大学）

スティグマと感染拡大

ディスカッサント：平田 光司（高エネルギー加速器研究機構）、川本 思心（北海道大学）

D-2-1 【OS】「黒い雨訴訟」判決・控訴は何を意味するのか1

オーガナイザー：林 衛（富山大学）

林 衛（富山大学）

問題提起：「黒い雨訴訟」判決・控訴は何を意味するか

大瀧 慈（広島大学名誉教授）

地裁判決が認めた「内部被曝」

高橋 博子（奈良大学）

広島・長崎・ビキニ・グローバルヒバクシャにとっての判決の意義

【第2セッション】 10:30 - 12:00

A-2-2 【GS】教育

座長：林 真理（工学院大学）

青木 千帆子（早稲田大学）

授業のオンライン化と情報アクセシビリティに関する現状と展望

萩原 優騎（東京海洋大学）

情報倫理教育においてリスク社会論の視点を参照することの意義と可能性

塚原 修一（関西国際大学）

社会人の学び直しにおける学術性と社会性—アメリカの Competency-Based Education の事例分析

B-2-2 【GS】科学の表象

座長：隠岐 さや香（名古屋大学）

吉岡 有文（イムス横浜国際看護専門学校）

音響学者・色彩学者 田口柳三郎の足跡と彼の社会観・文化観

有賀 雅奈（東北大学）

生命科学ジャーナル『Cell』における論文の図の分類と動向

片岡 良美（北海道大学）、川本 思心（北海道大学）

学際的な共同研究プロジェクトの「コンセプト図」をめぐる対話分析

C-2-2 【OS】 COVID-19 下の科学と政治

オーガナイザー：内田 麻理香（東京大学）

小山田 和仁（科学技術振興機構）、加納 寛之（科学技術振興機構）

COVID-19 対応における科学的助言の国際的動向

調 麻佐志（東京工業大学）、尾内 隆之（流通経済大学）

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議とその期待された役割

内田 麻理香（東京大学）

専門家論からみた科学と政治-大阪府の事例から-

柴田 清（千葉工業大学）

エンジニアに求められる専門性と政治性

ディスカッサント：田中 幹人（早稲田大学）

D-2-2 【OS】「黒い雨訴訟」判決・控訴は何を意味するのか 2

オーガナイザー：藤岡 毅（大阪経済法科大学）

小山 美砂（毎日新聞社）

戦後 75 年放置され続けている被ばく被害を取材して

森松 明希子（原発賠償関西訴訟原告団代表）

福島原発事故避難者からみた地裁判決の重要性

藤岡 毅（大阪経済法科大学）

放射線の健康影響をめぐる科学論争と政治

瀬川 嘉之（高木学校）

核と原子力における加害と被害-2020 年 12 月 ICRP 国際会議での議論をふまえて

ディスカッサント：八巻 俊憲（無所属）、山田 耕作（京都大学名誉教授）

【昼休み】 12:00 - 13:00

【第3セッション】 13:00 - 14:30

A-2-3 【GS】 トランスサイエンス／ELSI

座長：神里 達博（千葉大学）

八巻 俊憲（無所属）

科学と STS と市民性

林 衛（富山大学）

核開発推進のためのトランスサイエンス論を日本の STS 論者が援用し続けるのは偶然か

見上 公一（慶應義塾大学）

テクノロジーとしての「ELSI」

B-2-3 【GS】 研究マネジメント

座長：直江 清隆（東北大学）

小野田 敬（東京工業大学）、伊藤 泰信（北陸先端科学技術大学院大学）

研究組織で実践する問題解決志向研究の課題——学への理論的貢献と組織の問題解決との間のフリクションをめぐって——

齋藤 芳子（名古屋大学）

リサーチ・アドミニストレーターの多元的機能についての一考察

新井 聖子（慶應義塾大学）

日本の科学技術政策のエビデンス研究が進まない要因：SciREX 事業の事例研究

C-2-3 【OS】 証拠と議論に基づく宇宙科学政策の可能性

オーガナイザー：伊勢田 哲治（京都大学）

杉谷 和哉（京都大学）

EBPM と科学技術社会論

神崎 宣次（南山大学）

物質収支の観点からの宇宙開発への賛否の議論の可能性

磯部 洋明（京都市芸術大学）

宇宙の文化的価値はどのように語られてきたか

【第4セッション】 14:45 - 15:45

A-2-4 【GS】 科学コミュニケーション実践

座長：城下 英行（関西大学）

種村 剛（北海道大学）

先端科学技術の社会実装をテーマとした演劇脚本の制作～科学技術コミュニケーターと脚本家の協働プロセスの参与観察を通じて～

筒井 晴香（東京大学）

先端的脳科学研究に関する市民対話ワークショッププログラム開発の経過とそこから見えた含意・課題

B-2-4 【GS】 デュアルユース

オーガナイザー：夏目 賢一（金沢工業大学）

川本 思心（北海道大学）

デュアルユース概念の科学技術社会論的検討

小林 知恵（北海道大学）

デュアルユース研究と科学者の責任—— S. Miller の道徳的責任概念の批判的検討

C-2-4 【GS】 ジェンダー

座長：標葉 隆馬（大阪大学）

一方井 祐子（東京大学）、南崎 梓（名古屋大学）、加納 圭（滋賀大学）、横山 広美（東京大学）

ジェンダー平等に関する情報提供が子どもとその保護者の STEM に対する意欲に与える影響

南崎 梓（名古屋大学）、一方井 祐子（東京大学）、加納 圭（滋賀大学）、横山 広美（東京大学）

理科科目選択時における高校教員の無意識ジェンダーバイアス